

中学校武道

授業の充実に向けて

196

「今」の時代の武道授業を追い求めて
（「なぎなた」導入にあたる経緯と授業実施の歩み）

25

兵庫県伊丹市立天王寺川中学校 教諭 安藤陽子

本校では、剣道・柔道ではなく、地元の歴史に触れながら「なぎなた」を採用し、武道授業を展開しています。

なぎなたの授業を行うにあたり、主体的で協働的な学びを目指して、ICT機器（情報通信技術端末）を使いながら実施しています。本稿では、以前に参加した西日本武道指導者講習会での学びを活用した授業の内容と工夫を紹介いたします。

1 伊丹市がなぎなたを導入した経緯

伊丹市はかつて摂津国で伊丹城があり、酒造業で栄えていた伊丹の街を護衛するために、天明6（1786）年に領主の近衛家に道場設立の願いが出され、町民がこぞって武術（剣術や薙刀）を修行しました。その修行の場である道場として日本三大私設道場の一つである「修武館」が設置されました。

その後、明治維新によって武家

社会が消滅しましたが、先人は武術の衰微に不安を感じ、また武道を失ってはいけないと考え、教育を行う場である現在の「修武館」に至っています。第2次世界大戦後、武道禁止の苦難の時代が続きましたが、修武館と縁のある方々がなぎなたの復興に尽力され、昭和30（1955）年に「全日本なぎなた連盟」が発足すると、その本部が伊丹市に設置され「なぎなたの聖地」と呼ばれるようになりました。このような歴史的背景を踏まえて、伊丹市全中学校（8校）で中学校武道必修化に伴い、「なぎなた」を女子の武道授業で採用

10 時間程度での授業展開【2 年生】

1	2	3	4	5
・ 武道の歴史（なぜ、武道「なぎなた」を学ぶのか） ・ なぎなたの振り さば 構え・足捌き・素振り ・ オリエンテーション 打ち返し	・ しかけ応じ① 1 本目 ・ しかけ ・ 応じ	・ しかけ応じ② 1 本目 ・ 相対練習 I C T 機器を用いて、課題 発見・解決に向けてのペア ワーク①	・ しかけ応じ③ 2 本目 ・ しかけ ・ 応じ	・ しかけ応じ④ 2 本目 ・ 相対練習 I C T 機器を用いて、課題 発見・解決に向けてのペア ワーク②
6	7	8	9	10
・ しかけ応じ⑤ 3 本目 ・ しかけ ・ 応じ	・ しかけ応じ⑥ 3 本目 ・ 相対練習 I C T 機器を用いて、課題 発見・解決に向けてのグル ープワーク①	・ 発表会に向けての練習① I C T 機器を用いて、課題 発見・解決に向けてのグル ープワーク②	・ 発表会に向けての練習② I C T 機器を用いて、課題 解決を目指して練習を重ねる	・ 発表会

2 本校の授業内容 や工夫

しました。

本校では、技ができる楽しさや

喜びを味わい、武道の特性や成り

立ち、伝統的な考え方、技の名称

や行い方、その運動に関連して高

まる体力などを理解することを目

標に、I C T 機器を活用したりグ

ループ学習を設定したりして、協

働的な学びを通した授業づくりに

取り組んでいます（上表、10 時間

程度での授業展開【2 年生】参照）。

3

指導の中で心掛けた こと・注意したこと

○ 1 時間目…武道の歴史（なぜ、

武道「なぎなた」を学ぶのか）

「なぎなたの聖地」といわれる伊

丹市ですが、生徒の中には「なぎ

なた」について知る者は多くあり

ません。そのため「なぜ、武道」な

ぎなた」を学ぶのか」という学習



しかけ応じ①面打ち



長物を扱うため隊形には注意する

のめあてを明確に提示しました。
「日本固有の文化」として武道の歴史や精神を学ぶことと、「女子武道の一つ、教養の一つとして取り扱われてきたなぎなた」を紹介することを欠かさないように注意しています。

また、剣道などの導入で紹介されることもあるリズムに合わせで行う「リズムなぎなた」の実施も検討しましたが、生徒の実態として、素振りや形の練習に積極的に向かう姿が見られたことから、「リズムなぎなた」ではなく発声やキレのある形の授業を実施しました。3年間なぎなたを授業で行う中で、生徒がこれほど武道への興味を高める姿に驚きました。

○2時間目以降

ほとんどの生徒がなぎなた未経験者のため、グループピングには特に配慮はしませんでした。が、幼少期になぎなたを習っていた生徒や剣道部に所属する生徒がリーダーとして積極的にグループをまとめました。

生徒は長物を扱うことに慣れていないため、前後の確認など安全については十分に配慮しました。本校は生徒数が多い学校であるため、隊形などには特に注意しました。

さらに安全面の配慮として、なぎなたの刃部は竹でできていることから劣化している箇所を確認



しかけ応じ②すね打ち



お互いに撮影内容を確認



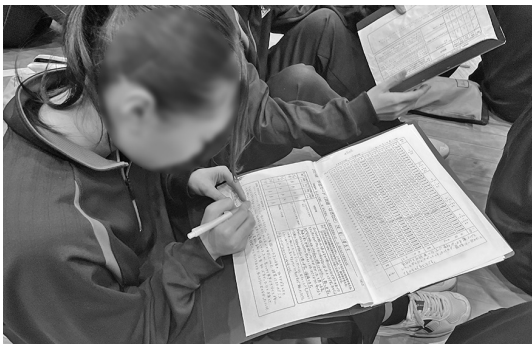
I C T機器で撮影

し、使用しない・修理するなどの備品の管理にも十分配慮しました。

生徒の「かつこいい武道」の実現に向けて、「正しく・かつこよく見せる」という目標の中で互いに撮影し、どのようにすれば目標に近づくことができるか、I C T機器を用いて考えを伝え合う協働的な学びの場を設定しました。また、全日本なぎなた連盟が提供している形の稽古(動画)を視聴し、それを模範としながらさらに上達できるよう授業を実施しました。

グループワークを通して、互いに評価をし合うことで課題の発見や他者との協働的な学びを行うために、評価のポイントを三つに絞り、演武と判定を行いポイント制で楽しく取り組めるよう工夫しました。

この実践は、以前参加した剣道の西日本武道指導者講習会で講師の先生より指導いただいた方法で、ポイント制を採用することで生徒たちが楽しみ、また主体的に声を掛け合いながら学ぶことができる協働的な学びの充実を図るこ



授業の最後に学習カードを記入

研修などで、なぎなたや武道を学びましたが、評価の仕方が難し

生徒・教員の声

4

とができました。さらに、この方法では、評価ポイントをより意識して演武に取り組むことができ、判定する側もポイントを絞ったうえで「評価しよう」と主体的に取り組むことに繋がったと考えています。

今後の武道授業をどの
ようにしていきたいか

5

いという声が本校では多くありました。演武への評価は、ダンスのようにカウント（拍子）があるわけではないので特に難しさを感じました。学習カードでは、生徒たちが熱心に取り組んでいる様子が見られ、生徒の武道を学ぶ積極的な姿勢に驚きました。

とで、生徒は技術だけではなく、武道に積極的に取り組ませること、生徒は技術だけではなく、相手を尊重することや礼儀作法など多くのことを学ぶことができます。そしてそのような授業を実践するために教師自身が積極的に研修会や講習会などで学んでいく必要があります。実際に、私自身も西日本武道指導者講習会での学びを生かすことができました。その指導によって生徒たちは、主体的に学ぶことができました。今後も積極的に研修会に参加し、指導力の向上を図っていきたいと思っています。

[illegible]

2年生の学習カード〔武道：なぎなた〕
(6～8時間目)